



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月31日

上場会社名 日本調剤株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3341 URL <https://www.nicho.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 三津原 庸介
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画部長 (氏名) 東條 祐弘 TEL 03-6810-0800
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績 (2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	232,844	4.2	12,277	2.3	5,829	0.0	5,836	△3.7	4,289	291.2
2022年3月期第3四半期	223,439	7.2	12,006	2.1	5,827	1.0	6,058	4.9	1,096	△67.8

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 4,300百万円 (286.5%) 2022年3月期第3四半期 1,112百万円 (△67.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	143.23	—
2022年3月期第3四半期	36.57	—

(注) EBITDA=(営業利益+減価償却費+のれん償却費)

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	187,619	56,327	30.0
2022年3月期	178,753	52,876	29.6

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 56,327百万円 2022年3月期 52,876百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	12.50	—	12.50	25.00
2023年3月期	—	12.50	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	12.50	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	321,400	7.4	17,600	17.5	8,500	29.0	8,400	24.1	4,400	18.7
									4,400	146.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	32,048,000株	2022年3月期	32,048,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	2,133,615株	2022年3月期	2,061,175株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	29,948,912株	2022年3月期3Q	29,986,867株

(注) 期末自己株式数には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式（2023年3月期3Q 72,200株、2022年3月期 0株）が含まれております。また、役員報酬BIP信託が所有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 将来に関する記述等に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、現在入手している情報による当社の判断及び仮定に基づく予想であり、リスクや不確実性を含んでいます。また、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因により、これら業績予想等とは大きく異なる結果となる場合があります。

(2) 四半期決算補足説明資料の入手方法

四半期決算補足説明資料についてはTDnetにて適宜開示し、当社ホームページへも掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2022年4月～2022年12月）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、景気は緩やかに持ち直しの動きがみられました。しかしながら、海外景気の下振れや国内外の感染動向に十分注意する必要があると、先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような経済情勢のもと、当社グループでは、「すべての人の『生きる』に向き合う」を使命とするヘルスケアグループとして、感染防止対策を徹底し、良質な医療サービス及び医薬品の提供に取り組んでおります。また、同時に全社を挙げたコスト抑制にも継続して取り組んでおります。2022年12月には、サステナビリティ経営の更なる推進に向けて指針・方針を策定しました。同時に、2022年6月に賛同を表明したTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言に基づく情報開示として、4つの項目（ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標）について内容を決定し、日本調剤グループサステナビリティサイトに掲載をいたしました。

調剤薬局事業においては、2022年10月31日より厚生労働省主導による電子処方箋のモデル事業に2地域・3薬局で参加を行い、医療機関・薬局等における電子処方箋の運用プロセスを検証するとともに、課題や先進事例の収集に協力を行っております。また、電子お薬手帳「お薬手帳プラス」においては、電子お薬手帳で初めてマイナポータルと連携を開始、複数の医療機関・薬局で調剤された薬剤情報を一元的に閲覧・管理することが可能となりました。これにより、患者さまご自身で薬剤服用歴を確認し、健康管理に役立てられるだけでなく、当社グループの薬局薬剤師も「かかりつけ薬剤師」として患者さまの服薬情報を一元的・継続的に把握することで、より高度な専門的薬物治療を提供することが出来るようになります。

医薬品製造販売事業においては、ジェネリック医薬品の品質管理と安定供給を最優先しつつ、研究開発投資による新規薬価収載品を含む自社製造品目の拡大及び生産性の向上に取り組んでおります。安定供給に向けては、業界全体の供給不安や2021年の西日本物流センターの火災の影響等により、多くの販売品目について限定出荷を行っていましたが、安定供給体制が整った製品から順次通常出荷に戻しつつあります。2022年5月以降160品目を超える限定出荷解除を実現しており、引き続き供給責任を果たすべく取り組みを進めてまいります。

医療従事者派遣・紹介事業においては、医師紹介事業における新型コロナワクチン接種関連需要が一段落した一方、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた主力である薬剤師の派遣・紹介事業が回復傾向にあります。

これにより、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高232,844百万円（前年同期比4.2%増）、営業利益5,829百万円（同0.0%増）、経常利益5,836百万円（同3.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益4,289百万円（同291.2%増）となりました。今後も当社グループは、患者さま・お客さまに安心してご利用いただくため、良質な医療サービスの提供に努めてまいります。

セグメント別の経営成績は以下の通りです。

① 調剤薬局事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は208,076百万円（前年同期比5.4%増）、営業利益は10,601百万円（同16.4%増）となりました。12月末時点での総店舗数は、同期間に31店舗を新規出店、12店舗を閉店した結果716店舗となりました。売上高及び営業利益につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が継続しているものの、前年度の出店効果及び処方箋枚数の増加等により増収増益となりました。なお、国が2023年度末までにすべての都道府県で80%以上とすることを目標として掲げているジェネリック医薬品の数量ベース使用割合は、当社グループでは2022年12月末時点ですべての都道府県において80%以上を達成しており、全社平均では89.3%（供給停止品目などを算出対象から除外して計算）と、全国平均を大きく超える水準となっております。また、在宅医療実施店舗の割合は12月末時点で全社平均95.4%（年間12件以上実施の店舗割合、新規店舗を含む）と順調に推移しております。

② 医薬品製造販売事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は29,316百万円（前年同期比16.9%減）、営業損失は456百万円（前年同期は1,294百万円の利益）となりました。売上高及び営業損失につきましては、2019年以降の新規薬価収載品は好調な販売を継続している一方、2022年4月の薬価改定に伴う既存製品の販売価格の下落、2021年の西日本物流センタ

一の火災に起因する限定出荷品目の安定供給への対応及び研究開発に伴う費用増加等により減収減益となりました。なお、2022年12月末時点での販売品目数は、販売品目の見直しを行うとともに、2022年6月及び12月に新規薬価収載品合計8品目を発売したこと等により611品目（一般用医薬品2品目を含む）となっております。

③医療従事者派遣・紹介事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は5,909百万円（前年同期比13.5%増）、営業利益は602百万円（同42.1%増）となりました。売上高及び営業利益につきましては、医師を中心とした新型コロナワクチン接種関連売上が減少する一方、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた薬剤師の派遣・紹介実績が前年同期を上回ったこと等により増収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は187,619百万円となり、前連結会計年度末の178,753百万円に対し、8,866百万円、5.0%増加いたしました。主に、商品及び製品の増加によるものです。

負債合計は131,292百万円となり、前連結会計年度末の125,876百万円に対し、5,415百万円、4.3%増加いたしました。主に、短期借入金及び長期借入金の増加によるものです。

純資産合計は56,327百万円となり、前連結会計年度末の52,876百万円に対し、3,450百万円増加いたしました。この結果、自己資本比率は30.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年4月28日に公表いたしました2023年3月期の連結業績予想に変更はありません。

なお、2023年3月期の連結業績予想においては、引き続き新型コロナウイルス感染症が通期にわたり業績に影響を与えることを織り込んでおりますが、今後状況が大きく変化し、業績予想修正の必要が生じた場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,543	20,284
受取手形	27	24
売掛金及び契約資産	20,458	20,840
電子記録債権	422	453
商品及び製品	23,024	35,157
仕掛品	1,799	1,630
原材料及び貯蔵品	6,262	6,415
その他	4,121	4,644
貸倒引当金	△8	△7
流動資産合計	81,651	89,444
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	29,559	29,225
土地	14,155	13,417
建設仮勘定	1,226	1,970
その他（純額）	19,083	17,961
有形固定資産合計	64,025	62,574
無形固定資産		
のれん	15,220	15,362
その他	3,749	4,867
無形固定資産合計	18,969	20,229
投資その他の資産		
投資有価証券	16	16
敷金及び保証金	8,797	9,335
その他	5,293	6,019
投資その他の資産合計	14,107	15,371
固定資産合計	97,102	98,175
資産合計	178,753	187,619

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	48,513	51,023
電子記録債務	2,862	2,393
短期借入金	1,000	4,750
1年内返済予定の長期借入金	12,366	10,600
未払法人税等	1,800	507
賞与引当金	3,861	2,005
役員賞与引当金	45	-
その他	8,483	8,360
流動負債合計	78,931	79,642
固定負債		
長期借入金	41,531	45,301
役員退職慰労引当金	71	84
退職給付に係る負債	2,276	2,425
その他	3,065	3,838
固定負債合計	46,944	51,650
負債合計	125,876	131,292
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,953	3,953
資本剰余金	10,926	10,926
利益剰余金	41,507	45,047
自己株式	△3,500	△3,600
株主資本合計	52,887	56,326
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	△10	0
その他の包括利益累計額合計	△10	0
純資産合計	52,876	56,327
負債純資産合計	178,753	187,619

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年 4月 1日 至 2022年12月31日)
売上高	223,439	232,844
売上原価	183,714	192,233
売上総利益	39,724	40,610
販売費及び一般管理費	33,897	34,780
営業利益	5,827	5,829
営業外収益		
受取手数料	28	30
受取賃貸料	372	438
受取保険金	134	54
補助金収入	164	26
その他	269	203
営業外収益合計	969	753
営業外費用		
支払利息	229	201
支払賃借料	285	330
その他	224	214
営業外費用合計	738	746
経常利益	6,058	5,836
特別利益		
固定資産売却益	6	1,170
受取補償金	-	120
役員退職慰労引当金戻入額	46	-
事業分離における移転利益	67	-
特別利益合計	120	1,290
特別損失		
減損損失	228	114
固定資産売却損	-	51
災害による損失	3,910	-
特別損失合計	4,138	166
税金等調整前四半期純利益	2,039	6,960
法人税、住民税及び事業税	1,705	1,720
法人税等調整額	△762	950
法人税等合計	943	2,671
四半期純利益	1,096	4,289
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,096	4,289

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年 4月 1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	1,096	4,289
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	16	10
その他の包括利益合計	16	10
四半期包括利益	1,112	4,300
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,112	4,300

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	調剤薬局 事業	医薬品製造 販売事業	医療従事者 派遣・紹介 事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	197,389	20,847	5,201	223,439	—	223,439
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	14,426	6	14,433	△14,433	—
計	197,389	35,274	5,207	237,872	△14,433	223,439
セグメント利益又は損失(△)	9,108	1,294	423	10,827	△5,000	5,827

(注) セグメント売上高合計及びセグメント利益合計と、四半期連結損益計算書の売上高及び営業利益との調整を行っております。なお、セグメント利益又は損失の調整額△5,000百万円にはセグメント間取引消去△72百万円及び全社費用△4,928百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「調剤薬局事業」セグメントにおいて、店舗資産(5店舗)等の減損損失228百万円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	調剤薬局 事業	医薬品製造 販売事業	医療従事者 派遣・紹介 事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	208,074	18,870	5,899	232,844	—	232,844
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	10,446	10	10,459	△10,459	—
計	208,076	29,316	5,909	243,303	△10,459	232,844
セグメント利益又は損失(△)	10,601	△456	602	10,747	△4,918	5,829

(注) セグメント売上高合計及びセグメント利益合計と、四半期連結損益計算書の売上高及び営業利益との調整を行っております。なお、セグメント利益又は損失の調整額△4,918百万円にはセグメント間取引消去△66百万円及び全社費用△4,851百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「調剤薬局事業」セグメントにおいて、店舗資産(2店舗)等の減損損失62百万円を計上しております。また、

「医薬品製造販売事業」セグメントにおいて、工場設備の一部について減損損失52百万円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。